静岡県教育長賞

わたしは小さなおまわりさん

菊川市立堀之内小学校　一年
新井　夢菜

「おはよう」このたったよんもじにはたくさんのちからがあります。

わたしの口からでる「おはよう」は、わたしはきょうもげんきだよ、とつたえることができます。

わたしのみみにとどく、ともだちからの「おはよう」は、きもちがうれしくなります。

そして、ちいきのみんなの「おはよう」ははんざいしゃからまちをまもるちからがあります。

まえにテレビで、プロのどろぼうが、どこでぬすむかをきめるとき、あいさつができる子どもがおおいまちは、ちいきの人たちのつながりがしっかりしていて、はんざいをしにくいからえらばないといっていました。

わたしは、もともとあいさつがにがてでした。なぜなら、しらない人にこえをかけるのは、はずかしいからです。でも、わたしがすこしゆうきをだせば、みんながたのしくわらっていられるまちになるとしってからは、まいにち大きなこえで

あいさつをするようにしています。これがわたしにとっての小さなしんせつだとおもいます。

わたしのあいさつをきいて、きもちがうれしくなった人が、おなじようにあいさつをかえしてくれて、たくさんのあいさつでちいきをまもる。わたしたちはみんな、小さなおまわりさんです。

静岡県教育長賞

静岡県教育長賞

繋ぐ

静岡県立浜松西高等学校　中等部　三年
天野　心結

私は去年、タイに行った。タイは微笑みの国と呼ばれている。なぜなら、仏教が多く信仰されているため、優しく、親切な人が多いからだ。仏教とは、他人のためを思い行動する人は人望を得て、人間関係が豊かになるという考え方である。私は今まで親切をしようと考えながら生きたことはなかった。しかし、タイで素敵な体験をしたことで、世界への見方が変わったのだ。

タイの空港につき、目的地までバスに乗ろうとした。私の家族の他にも、小さな子供やお年寄りもいた。バスは満席で、立つために前方へと移動しようとすると、座っていた若い男性や女性がみんな立ち上がり、小さな子供やお年寄りに席を譲っていった。私は、大勢の人が譲るという行動を初めてみて、とても驚いた。そして、私にもcome on！と声をかけてくれ、私と妹の席を移動して空けてくれたのだ。なんて素敵な人たちなのだろうと私は感動した。私はバスにお年寄りが乗ってきても、断られることが怖い、勇気が出ないといったとても小さな理由で見てみぬふりをしてきた。それなのにこの方々はためらいも

なく、笑顔で、当たり前にできるのだ。こんなにもあたたかい空間を全員で「当たり前に」作れるこの国は、本当に素晴らしいと感じ、日本もこうあるべきだと思った。

私は日本に帰り、いつものように、楽器を抱えながらバスに乗って学校へ向かっていた。すると、目の不自由な人が乗車してきた。瞬間的に「どうぞ」と席を譲ろうと体が動いた。その方は、「ありがとう」と座ってくれた。私は感謝してもらえたこと、そして前の自分より成長できたことが嬉しくなった。すると、そのやりとりを見ていたおじいさんが「僕は立っているのが好きだから！ほら、楽器も座りたがっているよ。」と席を譲ってくれた。私は遠慮しそうになったが、ありがたく席に座らせてもらうことにした。正直なところ楽器が重かったため、とても助かった。さらに、その光景を見ていた小学生の子が、「私のほうが立ってるの好きだよ！」と言って、おじいさんに席を譲った。こうして次々と人々の親切が連鎖し、バスの中はあたたかい空気に包まれた。私は、タイで学んだほんの少しの親切から、みんなが笑顔で助け合う姿を見れたことが嬉しく、胸がいっぱいになった。

私は今年、学校の研修旅行としてシンガポールに行く。本来の学校の目的は、国際社会と多様性文化の視野を広げること。ただ、私にはもう一つの目的がある。それは、シンガポールでも小さな心遣いを広めて、世界に届けていくことだ。どんなに小さな親切でも、みんなで繋げて連鎖していくことで、世界中の人々が快く過ごせる平和が訪れるだろうと私は考える。これからも小さな親切をみんなで繋げて、素敵な社会をつくっていきたい。

静岡県教育長賞